

改訂版の覚え書

「人形芝居雑話」といふ拙いものを出版したのも、もう三年餘の昔の事であつた。日本の人形芝居を知らうとして、唯一つの概論さへもがないがため、人形芝居の組織立つた研究が、遂げられない一因を爲してゐるに想到し、ほんの手引草、——人形芝居の手ほどきの意で、この書を世に送つたのであつた。

爾來三年の月日が経つて、こんな「雑話」など、塵に埋れて然るべきものだに、尙この書の必要があるらしく、改訂出版の交渉を受けた事を憾みとする。

併し、この三年間、人形芝居に關する、どんな書物が出版されたとも聞かない。また私が、「人形芝居雑話」で豫約した、私の倒敍「人形淨るり史」も未定稿のまゝで、世に示すに致らない。さすれば、こんなふつゝかなるものでも、或は尙ほ必要が多少殘されてゐるのだと思返

へして、誤れるを正し、各所に改訂を施し、且つ最近問題となつてゐる人形芝居の國家保護問題についての卑見をも書添へておいた。即ちこの一書は、人形芝居概論であると共に、人形芝居當面の問題、時事論策を集めたものである。従つてその後發表した學究的論文は、これを除いて、別に問ふところあらうとする。

最終に載せたは、その後、私の身邊に變化が起り、東京に移住した當初の所感とでもいふべき一文である故に、この書の改訂に當り、これを附して、私の是等の生活に一線を劃し、更らに將來の計畫に進まうとする。

「人形芝居雑話」において、私が豫約した私の倒敍「人形淨るり史」は、いろ／＼な事情で發表を後にし、人形芝居の發生當初からの「日本操史」をまづ世に送らうとする。この著は、嘗て私が「雑話」のはしがきにおいて、述べた「私の墓」である。最近私が母校早稲田大學で、去る四月の新學期から始めて、三ヶ年計畫で、講じつゝある「日本操史」の講座ノートを根幹として、その稿本を、今夏紀州高野山に暑を避けて、筆を新にしつゝあつた。その傍ら、この

書の改訂を終り、この「覚え書」を記しておく。そしてこの改訂版を「人形芝居の研究」と改めた。

昭和八年九月二日

紀州高野山常喜院に滞在の夜

石 割 松 太 郎

